



梅林堂

# 塩豆大福だより

令和4年  
9月号

## いろいろな「ご縁」

オミクロン株 BA.5 等の第7波のコロナ蔓延で経済・人心共に翻弄され続け、世界の政情もロシアのウクライナ侵攻に端を発し混迷する中、今日も「美味しいお菓子作り」に没頭できることは幸せな事だと思います。更にご縁があり梅林堂は東京都多摩地区にも出店を進めています。「何故、そのような運びになるのか？ どんなご縁があるのか？」改めて考えさせられる昨今です。

初代久兵衛・2代目寅吉にどんなことがあったのか？ 元治元年に菓子屋を始め2代目寅吉が東京の風月堂で修行し店を繁盛させていったのは今に伝えられています。しかし、日々の中でどんな人と会い、どんな話をし どう思ったかなどは残念ながら記録がありません。

そんなこんなで改めて江戸時代の浮世絵師 溪斎英泉（けいさい えいせん）作の「岐阻道中 熊谷宿 八丁堤ノ景」を見てみました。浮世絵の左に描かれている「茶屋」には「あんころ」と「うんとん」（うどん）の看板があります。以前の「塩豆大福だより」に書きましたように虎屋文庫によると江戸時代には菓子屋とうどん屋は一緒だったとあり、この浮世絵はその通りであることを物語っています。この浮世絵は今の熊谷の久下付近を描いたものらしく、ここにある茶屋は梅林堂ではありません。しかし、恐らく梅林堂の発祥の地は熊谷 石原宿の中山道沿いなので農家の久兵衛は米粉やうどん粉そして露地ものの小豆を使って菓子を造りこんな茶屋をしていたのでしょう。



埼玉県立 歴史と民俗の博物館より

実は、梅林堂は京都の壬生の新選組屯所であった「八木家」との繋がりががあります。

現在八木家は「京都鶴屋 鶴寿庵」という菓子屋でもあり、そのご子息が今から25年ほど前に梅林堂に菓子の見習いに来られました。

新選組の前身の「浪士組」にはこの武蔵の国から多くの若者が入隊しています。その中には熊谷次郎直実の末裔「根岸友山」もその名簿に記載しています。近藤勇も沖田総司、芹沢鴨 後に新選組の中核を担う名もあります。

きっと八木家にも立ち寄ったかもしれません。

何かのご縁があるのかも？ 考えすぎでしょうか？

初代の久兵衛は旅好き？であの時代に撮影したお伊勢参りの旅姿の写真があります。旅の中での出会い等今となっては想像するしかありませんが何かがあったと考えるのも浪漫ですね！

株式会社梅林堂 代表取締役 栗原良太

このおいしさ もっともっと知ってほしいから

毎月**22**日は **塩豆大福の日**

塩豆大福 **2**割引

数量限定 **麦こがし** 塩豆大福

今月の「塩豆大福の日」限定商品 4個入 **640**円(税込)

9月22日(木) 塩豆大福の日

麦こがし

塩豆大福

香ばしく、やさしい甘さの麦粉を  
ひとつひとつ手作業でまぶしました。  
どこか懐かしい香りをまとった  
22日限定の塩豆大福です。

4個入 640円(税込)



“美味しい”は笑顔を作ります



梅林堂